



平成 19 年 9 月 10 日

各 位

本店所在地 堺市堺区戎島町 4 丁 45 番地の 1
会社名 株式会社 ユークス
(コード番号 4334 ヘラクレス)
代表者名 代表取締役社長 谷口 行規
問合せ先 常務取締役 品治 康隆
電話番号 072(224)5155 (代表)

中間業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 1 月期 (平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日) 中間期の業績予想について、平成 19 年 3 月 23 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 1 月期中間連結業績予想数値の修正(平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日)
(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	1,666	△250	△118
今回修正予想(B)	1,594	△23	51
増減額(B-A)	△72	226	170
増減率(%)	△4.3	—	—
前期(平成 19 年 1 月中間期)実績	1,530	△521	△419

2. 平成 20 年 1 月期中間個別業績予想数値の修正(平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日)
(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	1,027	△191	△111
今回修正予想(B)	935	△64	△184
増減額(B-A)	△91	126	△73
増減率(%)	△8.9	—	—
前期(平成 19 年 1 月中間期)実績	905	△262	△161

3. 修正の理由

連結売上高は、デジタルコンテンツ事業の主力商品である WWE スマックダウンシリーズが欧米を中心に好調な売り上げを記録したことによりロイヤリティ収入が104百万円の増収となりましたが、受託ソフトウェア2タイトルの完成が下期に変更されたことにより、受託ソフトウェア収入が185百万円減少しました。しかし、デジタルコンテンツ事業における利益率の高いロイヤリティ収入が増加したことおよび興行事業の経費削減効果等により、経常利益および中間純利益は、それぞれ226百万円、170百万円改善する見通しとなりました。興行事業では、中間純利益が黒字転換する見通しとなりました。

また、中間個別業績の売上高および経常利益の修正は、上記中間連結業績のデジタルコンテンツ事業の修正理由と同じです。一方、中間純利益は下記の理由により、赤字幅が拡大する見通しとなりました。

当社は、デジタルコンテンツビジネスの海外展開の一環として、今後も成長が見込まれる米国市場に海外拠点を設置する目的で、平成17年11月にYUKE'S Company of Americaを設立しました（平成18年3月6日開示「海外現地法人設立に関するお知らせ」参照）。そして、今後、同社の事業を拡大していくこともあり、当中間連結会計期間より連結子会社に含まれることとなりました。しかし、グループ企業に対する評価実務は厳しさを増しており、当社の同社に対する投融資の評価に対して、保守的に判断し、35,924千円の関係会社株式評価損および100,687千円の貸倒引当金繰入額を特別損失に計上することにいたしました。

4. 関係会社株式評価損および貸倒引当金繰入額について

上記3.に記載のとおり、平成17年11月に設立しましたYUKE'S Company of America（当社の出資額35,924千円）の評価損計上および同社への長期貸付金100,687千円全額を貸倒引当金繰入といたしました。

5. 平成20年1月期通期の業績につきましては、業績予想の修正はございません。

【ご参考】平成20年1月期通期の業績予想（平成19年2月1日～平成20年1月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
通期の連結業績予想 （平成19年3月23日発表）	6,094	908	581
前期の連結業績実績	4,812	814	△601

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
通期の個別業績予想 （平成19年3月23日発表）	4,567	869	506
前期の個別業績実績	3,266	976	△518

以上